

## 中間報告書

助成番号 第 56-2 号

助成研究 競技場・スポーツ施設利用時のアクセシビリティ向上に関する研究

助成期間 平成 27年 7月 ~ 平成 29年 2月 (20ヶ月間)

所属 東京大学大学院 工学系研究科 准教授

氏名 松田 雄二

中間報告の 助成決定から平成 28年 2月までの研究

## 1) 研究の目的

2020年に東京で開催されるパラリンピックでは、22種目の競技が20会場で開催されることが予定され、そのため文部科学省・国土交通省・東京都などが、各種ガイドラインや建築設計標準の整備を進めている。しかしながら、スポーツ競技選手の視点で、自宅から競技施設まで、連続的なアクセシビリティについての実態は明らかでは無い。

本研究では、視覚障害者・聴覚障害者・肢体不自由者・知的障害者・発達障害者など、様々な主体を対象とし、自宅を出て何らかの手段で移動し、競技場・スポーツ施設を利用し、そして帰宅するまで、一連の移動経路を調査対象として、競技場・スポーツ施設を利用する際のアクセシビリティ向上に必要な要素を明らかにすることを目的とする。

## 2) 調査の概要

本調査では、平成27年度は様々なパラリンピックに関連するスポーツ競技主体に関する文献調査と、それらの主体に対する競技場・スポーツ施設の利用時の課題に関するヒアリング調査を行った。平成28年度は、引き続きヒアリング調査・事例調査を行う予定である。

なお、研究開始当初はアンケート調査の実施を予定していた。しかし、予備的なヒアリング調査を実施するなかで、対象とするスポーツ施設利用者、そしてその人々の利用する環境が極めて多様であることが、研究チーム内で認識された。このような状況において、網羅的なアンケート調査を行うことの意義に関し、その実施の有無を含め現在検討中である。

## 3) 調査結果の概要

## 3-1) 文献調査結果

文献調査においては、日本におけるパラリンピックを中心とした障害者スポーツの発展の経緯、障害者スポーツ関連組織の発展の経緯、障害者の利用するスポーツ施設の整理を行った。結果の概要を以下に示す。

・障害者スポーツの発展の経緯: 20世紀初頭より聴覚障害者・視覚障害者によるスポーツ大会の記録が見られる。第2次世界大戦後は、傷病兵の運動療法としてスポーツが取り入れられ、主に肢体不自由者を中心としたスポーツが広がりを見せた。その後1964年に東京パラリンピックが開催され、これを契機として障害者スポーツを取り巻く環境整備が進む。1998年には長野パラリンピック(冬期)が開催されるが、この頃には競技スポーツとしての性格が強くなる。そして長野パラリンピック以降は、次に述べる障害者スポーツ関連組織が統合されるなかで、2020年の東京パラリンピックへ向けた整備がなされている状況である。

・障害者スポーツ関連組織の発展の経緯: 1963年、日本発の肢体不自由者を含む障害者スポーツ関連組織として、国際身体障害者スポーツ大会(東京パラリンピック大会)運営委員会が設置された。この後、この組織を引き継ぐ形で日本身体障害者スポーツ協会が発足、1975年には日本車いすバスケットボール連盟が設立され、当時唯一の肢体不自由者のスポーツ組織として、障害者スポーツを牽引してゆく。1980年代になると、各種スポーツ競技団体が設立され、1990年には日本身体障害者スポーツ協会は、知的・精神障害者を身体障害者のスポーツと統合した組織として、日本障害者スポーツ協会と改称、同時に協会内部に日本パラリンピック委員会(以下「JPC」とする)を瀬一致、以後JPCは障害者のスポーツとリハビリテーションの振興の発展に中心的な役割を果たしている。

・障害者の利用するスポーツ施設: 障害者の利用するスポーツ施設を、大きく「地域の障害者スポーツ活動拠点」「各障害者スポーツ競技団体の拠点」の2つに分け、インターネットなどにて現状を調査した。結果、前者は各都道府県に少なくとも1施設は設置されていること、後者については公共・民間両者の施設が使われ、また競技種目・クラブチームのそれぞれに拠点となる施設があることが判明した。

以下、競技団体組織が開設しているホームページ等より確認できた、直近の国内大会の開催施設等を示す(表1)。

表1 直近の国内大会等の開催施設

競技種目	会場	備考
アーチェリー	埼玉県障害者交流センター(さいたま市)	ホームページで確認できた内容は2013年度の大会情報のみ。
	北九州市本城公園野球場	
	しあわせの村(神戸市)	
	神奈川県総合リハビリセンター	
	木島平やまびこの丘公園	
	奈良県心身障害者福祉センター	
	神奈川県相模原市 けやき体育館	
	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター アミティ舞洲	
陸上競技	ヤンマースタジアム長居(大阪市)	2011年～2015年度の主催大会。
	町田市立陸上競技場	
	米子市営東山陸上競技場	
	仙台市陸上競技場	
	大分市営陸上競技場	
	維新百年記念公園(山口市)	
	金岡公園(堺市)	
ポッチャ	維新百年記念公園アリーナ(山口市)	2013年度～2015年度の選手権大会本大会。
	グリーンアリーナ神戸	
	北海道立総合体育センター 北海きたえーる(札幌市)	
自転車	伊豆市日本サイクルスポーツセンター	2014年度、2015年度のトラック競技。
	伊豆ベロドローム(伊豆市)	
	栃木県大田原市ふれあいの丘	
	泉崎国際サイクルスタジアム(福島県西白河郡泉崎村)	
馬術	かなぎウェスタンライディングパーク(島根県浜田市)	2007～2015年度の全国大会会場。
	三木ホースランドパーク(兵庫県三木市)	
	エルランチョ・グランデ(大分県九重町)	
	湯の山乗馬クラブ(三重県三重郡)	
5人制サッカー	埼玉県障害者交流センター(さいたま市)	2015年度の国内試合会場。17あるクラブチームの活動拠点にて試合を行うため、試合会場は全国に分際する。障害者スポーツ施設に限らず、一般のフットサルコート等も利用。
	真駒内セキスイハイムスーパーアリーナ(札幌市)	
	下高井戸運動場(東京都杉並区)	
	慶応大学日吉キャンパス(横浜市)	
	新潟ふれ愛プラザ(新潟市)	
	MIFA Football Park(東京都江東区)	
	押原公園(山梨県中巨摩郡)	
	兵庫県立障害者スポーツ交流館	
文京区小石川運動場		
7人制サッカー	J-GREEN 堺(堺市)	2009～2011年の国内大会会場。8あるクラブチームの活動拠点にて試合を行うため、試合会場は全国に分際する。障害者スポーツ施設に限らず、一般のフットサルコート等も利用。
	COSTA 横浜(横浜市)	
	長良川球技メドウ(岐阜市)	
	中央大学多摩キャンパス サッカー場(八王子市)	
	銀座 de フットサル 大崎スタジアム(品川区、営業終了)	
	フロントタウンさぎぬま(川崎市)	
ゴールボール	国立障害者リハビリテーションセンター(所沢市)	20014、2015年度国内大会の会場。
	岐阜県立岐阜中央中学校(岐阜市)	
	江東区立有明スポーツセンター	
	青梅市青梅総合体育館	
柔道	講道館(文京区)	20014、2015年度国内大会の会場。合宿の多くは講道館で行われている。
	滋賀県立武道館(大津市)	
	浜北武道館(浜松市)	
パワーリフティング	日本体育大学世田谷キャンパス(世田谷区)	2011～2015年度の国内大会会場。
	名古屋芸術大学西春キャンパス(北名古屋市)	
	兵庫県立障害者スポーツ交流館(神戸市)	
	東京スポーツ文化館(江東区)	
ローイング	横浜鶴見川漕艇場	大会開催場所を特定することができなかったが、練習場所は主に鶴見川とされている。
セーリング	東京都江東区	大会開催場所を特定することができなかった。

(表1の続き)

競技種目	会場	備考
射撃	出雲エアライフル射撃場 (出雲市)	2015年度の大会会場のみ。
	サン・アビリティーズいずも (出雲市)	
	しあわせの村 (神戸市)	
	大阪市長居障がい者スポーツセンター	
	東京都障害者総合スポーツセンター (北区)	
	埼玉県障害者交流センター (さいたま市)	
水泳	宮城県総合運動公園グランディ・21 (宮城県宮城郡)	2015年度の大会会場のみ。
	東京辰巳国際水泳場 (江東区)	
	群馬県立ふれあいスポーツプラザ (群馬県伊勢崎市)	
	静岡県富士水泳場 (静岡県富士市)	
	福岡市立障がい者スポーツセンター	
卓球	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター	2015年度の大会会場のみ。
シッティング バレーボール	中央区立総合スポーツセンター	1997～2014年度の全国大会会場。
	兵庫県神戸市立王子スポーツセンター	
	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター アミティ舞洲	
	慎重森県総合運動公園・青い森アリーナ (青森市)	
車椅子 バスケットボール	東京体育館 (渋谷区)	内閣総理大臣杯 (2006年より確認可) はすべて東京体育館で実施。全国障害者スポーツ大会は全国各地で行われている。
	新潟市総合スポーツセンター	
	大分県立総合体育館 (大分市)	
	能代山本スポーツリゾートセンター (秋田県能代市)	
	岡山県体育館 (岡山市)	
車いすフェンシング	京都市障害者スポーツセンター	1997～2006年度の国内大会会場。
ウィルチェアー ラグビー	千葉ポートアリーナ (千葉市)	第1回大会 (1999年) よりすべて同一の会場。
車いすテニス	筑豊ハイツ・筑豊緑地テニスコート (福岡県飯塚市)	2015年度の大会会場のみ。国内大会は系7つあり、それぞれ開催会場が異なる。
	吉田記念テニス研修センター (柏市)	
	厚木市宮南毛利スポーツセンター	
	鞆テニスセンター (大阪市)	
	しあわせの村 テニスコート (神戸市)	
	広島広域公園テニスコート (広島市)	
東広島運動公園テニスコート (東広島市)		

## 3-2) ヒアリング調査結果

## 3-2-1) 調査協力者の概要

本調査では、競技団体関係者1名、競技者6名の、計7名より協力を頂いた。調査協力者の概要を示す(表2)。JPC職員である事例Aをのぞき、全員が競技者としてスポーツを行っている。

事例Aは、競技者への調査に先立ち、障害者スポーツの現状と課題に詳しい知識を持つJPCの職員に協力を依頼し、ヒアリングを行った。事例BからHにおいては、1) 障害や年齢等の基本的な属性、2) 普段実施しているスポーツの概要、3) スポーツ施設利用時の移動形態と課題、4) スポーツ施設利用時の利用形態と課題、5) その他の、5項目について、半構造化インタビュー手法によりヒアリングを行った。また、事例D・Eは同時にインタビューを行う形式で調査を行い、事例Fでは母親に対しヒアリングを行った。

表2 ヒアリング調査協力者の概要

事例	調査実施日 (すべて2015年)	年齢	性別	居住地域	競技種目	障害の種類	備考
事例A	10月26日	—	—	—	—	—	JPC職員
事例B	11月4日	30代	男性	関東	柔道	視覚障害	
事例C	11月10日	30代	男性	関東	陸上	視覚障害	
事例D	11月14日	50代	男性	関東	車いすテニス	下肢障害	手動車いす使用
事例E	11月14日	40代	男性	関東	車いすテニス	下肢障害・体温調節機能障害	手動車いす使用
事例F	11月27日	20代	男性	北海道	水泳	知的障害・自閉症	
事例G	11月27日	80代	男性	北海道	アーチェリー	肢体不自由	義足使用
事例H	11月27日	40代	男性	北海道	ウィルチェアーラグビー	肢体不自由	手動車いす使用

### 3-2-2) 事例A(JPC職員)の調査結果の概要

事例Aの調査結果を、「個別の障害者スポーツに関する事柄」「パラリンピックに関する事柄」に分類し、前者をさらに「障害者スポーツに対する認識」「各競技ごとの状況」「練習場所について」、後者をさらに「事前合宿」「宿泊施設」「サポートチーム」に分類した(表3、4)。

表3 個別の障害者スポーツに関する事柄

#### 障害者スポーツに対する認識

- ・障害者がスポーツセンターで受け入れてもらいにくい現状がある
- ・「障害者＝スポーツしたら危ない」という意識が立ちはだかっている
- ・最初から危ないと思っているから、その人(＝障害をもつひと)たちが利用できるように施設改善するという考えに、なかなか行きつきにくい
- ・車椅子などの器具を用いる競技だと、体育館の床や陸上トラックが傷むのではないかと、怪我をして危ないのではないかと、などといった懸念があり、アクセスできるにもかかわらずスポーツ施設の利用を断られてしまう状況も多い
- ・スポーツセンターを利用しに来る人はエレベータを用いる必要がないという前提のもと、多くのスポーツセンターではエレベータが付いていない
- ・公共の施設や、共用の普通のトレーニングジムとかがなかなか理解を示してもらえないことが結構多い

#### 各競技ごとの状況

- ・車椅子バスケットについては、チームが日ごろから練習している会場があり、施設側の理解がある
- ・競技団体からの申請ベースで、現在拠点として利用している施設をそのまま拠点として認定していくというサテライト方式で運用する予定
- ・各競技団体に、それぞれホームグラウンドのようなところがあることが一般的
- ・水泳については、障害の度合いが軽ければ普通のスポーツクラブに入って、健全の子どもたちと一緒にトレーニングができる
- ・陸上については、近くに能力の高い選手がいれば一緒に練習をさせてもらなづしてトレーニングをすることもできるが、そうでないと自力だけでは難しい
- ・視覚障害陸上競技については、ガイドを探さなければならない
- ・ブラインドサッカーのトレーニング場所の問題点は、周りを囲っているフェンスの保管場所
- ・静寂性があるところだとブラインド競技はできない
- ・以前代々木でブラインドサッカーの大会を開催した際は、他のイベントをしないようお願いを立てたりした

#### 練習場所について

- ・(障害者スポーツ競技の)日ごろの練習に関して言うと、練習する場所が圧倒的に少ない。
- ・最寄りの施設に行くのに、隣の県までいかないといけないという人もいる
- ・「障害者＝スポーツしたら危ない」という意識が変わらない限りはアクセシビリティは良くならない
- ・公共のスポーツセンターが、障害者用のアクセシビリティを考えた作りになっているところも少しずつ増えている
- ・地域の障害者スポーツセンターや、地域の利用可能な体育館に行く場合に、アクセシビリティに問題があると思われる人たちは、最初から車で移動する

表4 パラリンピックに関する事柄

#### 事前合宿

- ・時差があるので、ヨーロッパからは事前合宿場所について希望が多数出されることが予測される
- ・事前合宿の場所について、姉妹都市を締結しているだとか、良く知っている人がいるというベースでも決まり得る
- ・事前合宿の場所は、全然コネクションがないところで手を挙げて決まるというのは難しい
- ・自治体レベルで事前合宿のチームへの対応できるスポーツ施設がない
- ・車椅子競技のうち、特にポッチャ・ウィルチェアラグビーのような重度の脳性マヒ・頭損となると、日本の選手が我慢できても海外の選手が我慢できない状況がどうしても出てくる
- ・ポッチャの事前合宿が受け入れられるようになったら、相当なレベルでのアクセシビリティと言え得る
- ・事前合宿の場所について、空港からの距離がネックとなる

#### 宿泊施設

- ・チーム規模の人数に対応できるホテルが国内にそれほどない
- ・ある程度のグレードのホテルならば対応できると思われるが、経済的に現実的ではない
- ・ビジネスホテルのようなところでコーチが一生懸命助けてお風呂に入れるというような現状がある
- ・招致するにはIF基準の競技場やそれなりにアクセシブルな宿泊施設がないと、手を挙げるということができないという状況になっている
- ・パラリンピックの整備に関してはレガシーベースで考えるべき
- ・柔道、ゴールボールといった視覚障害者の競技であれば、少しの配慮ですぐに対応が可能。

#### サポートチーム

- ・障害者スポーツ競技ではサポートチームの人数が健常のスポーツと比べて多くなる
- ・サポートチームの構成としては、競技団体の組織運営を担う事務局、事務局の中にコーチ、メディカルの部分ではチームドクターとトレーナー、健常の人との競技の場合には競技パートナー、車椅子や義足を用いる競技の場合はメカニックなど
- ・パラリンピックの場合の方が配布されるアクレディテーションカードの枚数も多い
- ・サポートチームのひとの大半がボランティアで賄っており、長期間の休みをとれる環境のひとに頼らざるを得ない

3-2-3) 事例B~Hの調査結果の概要

まず、普段の移動の状況について示す(表5)。車いすを利用する競技の特徴として、競技専用の車いすが必要であること、そのため移動は自家用車中心であることがわかる。

表5 各事例の移動の状況

事例B	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて10分程度ならば徒歩、それ以上であればタクシーを利用</li> <li>乗り換えが複雑な鉄道駅の利用は避ける。可能であれば、単純な駅を代わりに利用</li> </ul>
事例C	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷物是一般的なスポーツバッグ1つで間に合う</li> <li>歩いて20~30分程度であれば徒歩、それ以上時間を要する、または人数が多い場合はタクシーを利用</li> <li>団体で移動する場合は集合場所を詳細に打ち合わせる</li> <li>バスは地域によってルールが異なるため、利用をためらう</li> </ul>
事例D・E	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常練習時はテニス車とラケットバックを、遠征時は加えてツアーバックを携行する</li> <li>移動はもっぱら自家用車、競技用荷物は大きく、在来線の利用はほぼ不可能</li> <li>新幹線を利用するためには在来線の利用が必要なため、遠征時は飛行機にて移動</li> </ul>
事例F	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて行く場所は必ず親と自家用車で移動</li> <li>地下鉄駅から近い場所であれば、一人で移動できる</li> </ul>
事例G	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動は自家用車を使用</li> <li>長距離歩くことはつらい</li> </ul>
事例H	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動は自家用車を使用</li> </ul>

次に、各事例ごとに「課題」と「要望と工夫、優良事例」について、「場面」別に整理した(表6)。「場面」については、「在来線」「徒歩」などの移動の場面と、「競技施設」「宿泊施設」の2つの施設によって整理した。「競技施設」「宿泊施設」は、さらに言及されたヶ所に関し分類し、整理した。

表6 各事例ごとの「課題」と「要望と工夫、優良事例」

場面	課題	要望と工夫、優良事例	
事例B			
在来線	<ul style="list-style-type: none"> <li>電車内のアナウンスは聞こえないことが多い</li> <li>乗り換えが複雑な駅での乗り換えは避ける</li> <li>発着のプラットフォームが急行、準急、特急等によって異なりわかりづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デバイスを利用して、電車内に居ながらにして、停車駅情報などを取得できると便利</li> </ul>	
徒歩		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて10分程度であれば、デバイスを活用することでたどり着くことができる</li> </ul>	
競技施設	サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声によるナビか、大きめのサインがあると弱視者でも視認できる</li> <li>一般に知らせる内容は邪魔にならない程度の音声を放送し、細かい情報に関してはデバイスでアクセスするといった2段階で計画されることが望ましい</li> </ul>	
	出入口	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技場の入り口がわからないことが多い</li> <li>靴箱の利用は、自分がどこに置いたかわからなくなってしまうことが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常時利用者の多い施設ではイベントの際に人が立って誘導するようになれば、施設までたどり着くことができる</li> <li>案内のひとを役割別にシャツで色分けしておけば、通行人に案内人の所在を尋ねやすくなるだけでなく、通行人も答えやすくなる</li> </ul>
	売店		<ul style="list-style-type: none"> <li>店員の対応として、視覚障害者が来店した際にはまず、何がほしいのか尋ねると便利</li> <li>売店での困りごとはスタッフの人的対応によって多分に解決される</li> </ul>
	自動販売機	<ul style="list-style-type: none"> <li>弱視者には使いにくく、全盲者には使えない</li> </ul>	
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイズやボタンの位置が様々で使いにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きめのサイン、通常の高さのサインと音声のサインがあるとわかりやすいのではないかと</li> <li>センサーで水洗されると便利</li> </ul>
	ロッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>番号式の鍵だと使えないので鍵式だとありがたい</li> </ul>	
	競技場	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷物は動かされてしまうとどこにあるかが全く分からなくなってしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タグをつけるなどして自分の荷物を識別する</li> <li>荷物は固定できるようにしてあるとありがたい</li> </ul>
宿泊施設	部屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアコン、電灯といった設備の使い方がわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったら従業員に聞けば解決される</li> </ul>
	食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビュッフェ形式だと食べ物を見分けることができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度視力のある者が全盲者の分まで取ってくる</li> </ul>

場面		課題	要望と工夫、優良事例
事例 C			
団体移動			<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団移動は集まれさえすれば特に問題は生じないので集合場所は詳細に打ち合わせる</li> <li>・駅員に尋ねるか、コーチに目の代わりになってもらう</li> </ul>
バス			<ul style="list-style-type: none"> <li>・電光掲示が読めない</li> <li>・地域によって、先/後払い、前/後ろ乗りといったルールが異なるのがわかりにくい</li> <li>・整理券番号による運賃表示が読めない</li> </ul>
徒歩			<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にはデバイスを利用して移動するが、迷ってしまった場合、最終的には電話で道順がわかる人に聞く</li> <li>・道幅が広ければ、車いす利用者とロービジョン者がともに移動することで、前者は後者の目となり、後者は前者の物理的なバリアーを超える手助けをするといった相互補助ができる</li> </ul>
競技施設	扉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内でも建具が、自動ドア、押し開き戸、両開き戸があったり、取っ手が異なるとわかりにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建具がシンプルで統一されていることが望ましい</li> </ul>
	通路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁や柱の色を手掛かりとしているので、掲示物によってそれらの色が急に変わっていると場所がわからなくなってしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段差や、点字ブロックを情報の手掛かりとしている</li> </ul>
	サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に案内表示は見えていない</li> <li>・サインは大きくないと見えないが、大きすぎても視野から欠けてしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コントラストのはっきりとしたサインが見やすい</li> </ul>
	照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明暗の差がはっきりしていないと、気付かずに人にぶつかることがある</li> </ul>	
	出入口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜に施設に訪れると、入口が暗くてわからない</li> </ul>	
	トラック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック内側の緑石に置く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑石を設けるにしても大きなものであれば視認できるが、本来はないほうが望ましい</li> </ul>
	自動販売機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージが多様すぎるという理由から商品を識別することができない</li> </ul>	
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボタンを識別できないため、多機能トイレを利用すると混乱する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてがセンサー式になるということが望ましい</li> </ul>
	ロッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッカーに振ってある番号は読めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッカーは場所、位置で覚えている</li> </ul>
	シャワー室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドルの識別ができないため、試みに回してみ確かめるといふことを行う</li> <li>・雨天時は路面が滑る、霧がかかり見えづらくなる、路面が反射し眩しく感じるといった問題がある</li> </ul>	
宿泊施設	部屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて利用する宿泊施設は間取りや設備がわからない</li> <li>・暗証番号式、カード式の鍵はある程度視覚情報を要するため使いにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋に関する情報が事前にあるとよい</li> <li>・エレベータを降りた所にフロアマップがあると良い・シンジダー錠がシンプルで使いやすい</li> </ul>
	食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピュッフェ形式、料理の個別オーダー形式の注文方法だと、逐一料理を訪ねる必要がある</li> </ul>	
事例 D・E			
バス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型の身体障害者用バスでは、全員が乗り入れるまでの所要時間が長い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2, 3人乗りの小型バス・ミニバンの方が定員も少なくすぐに出発できる、数を多く回すことができるといったメリットが多い</li> <li>・過度の設備を備える必要はない</li> <li>・バスの運転手による人的な対応が肝要である</li> </ul>
在来線		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会用の荷物を持つのに在来線利用は、スペース等の理由からハードルが高い</li> <li>・乗り換え、駅の構造が複雑で移動がしにくい</li> <li>・駅近辺の駐車場料金が安い</li> </ul>	
新幹線		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線駅までの移動に在来線を用いなければならない</li> </ul>	
飛行機		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で広く用いられる車輪を着脱する方式のエアリチェアはオーバーオリティではないか</li> </ul>	
競技施設	階段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段にはリフトがついていなければ登れない</li> </ul>	
	通路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーペットが敷いてあると、毛に足が絡まり方向が狂ってしまい、ストレスを感じる</li> <li>・点字ブロックは通行の妨げになることが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーペットを敷くにしても、車いすの幅だけ、摩擦の少ない素材であることが望ましい</li> <li>・点字ブロックがゴムのような柔らかい素材で作られていると、車いす通行の妨げにならない</li> <li>・車いすでテニスチェアをもって通れる幅がほしい</li> </ul>
	スロープ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スロープへの配慮がないと利用できない</li> </ul>	
	コート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂入り人工芝は滑ってしまうため利用しない</li> </ul>	
	用具置き場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技用車いすが廊下にしか置けないので、観客の通行の邪魔になってしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技場の外にテントを建て、地面にテーピングによって枠と数字を振るなどして、選手が各々の車いすを置く場所を定めておくと、施設内に物置スペースを設ける必要がないだけでなく、番号が振ってあることで大会ボランティアに自分の車いすをとってきてもらうことができる</li> </ul>
	トイレ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開口の袖壁の長さを減らし、間口をもっと確保することが望ましい</li> </ul>
	観客席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす席が隔離されている日本の観客席では障害者が疎外感を感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観客席の座席が着脱式になっていて、席を外すことで車いす席とすることができるのが望ましい</li> </ul>
	シャワー室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす利用者が使用できるシャワーがすくない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り畳み式のベンチであったり、プラスチックのベンチがおいてあると、者がおけるなどして便利</li> </ul>

		(表6の続き)	
場面	課題	要望と工夫、優良事例	
<b>事例 F</b>			
移動		・困ったことやパニックになった場合は、職員さんに相談、または母親に携帯電話で連絡するよう、言い合めている	
競技施設	通路	・動線が複雑な施設は使いづらい ・初めての場所では、エレベーターの場所が分かりづらいことがある	・イギリスの国際大会に出場した際の会場は、コンパクトでわかりやすかった
	プール等		・利用する際はコーチ等が付き添うので、特に困ることは無い
	ロッカー	・職場から直接向かう際、ロッカーが小さく職場の荷物が入らない	
	更衣室	・初めての場所では、男女で迷うことがある	
	シャワー室	・初めての場所では、男女で迷うことがある	
<b>事例 G</b>			
移動		・大会時に遺出する際車いす用の自動車(無料)を借りることができるが、運転手を別途手配しないと行かない ・気軽に宿舍外にご飯に出かけるなどができず、結局、使い勝手が悪い	
飛行機		・空港利用時に、格安航空券だと搭乗口が遠く、歩くことがつらい	
駐車場		・使用する道具が合計20kgぐらい。駐車場から施設内へ運ぶ時にキャリーなどを使用するが重くて大変	
競技施設	トイレ	・車いす用トイレが狭く、障害者のために手すりなど設備はあるのに車いすが入れない	
<b>事例 H</b>			
移動		・冬季の駐車場からのアクセス、除雪が雑だと車いすが進まない、競技用車いすの運搬ができない	
駐車場		・地下駐車場があれば便利	
競技施設	予約	・利用する以前の問題として使用予約がとれない ・フローリングの床に傷がつくから困るといわれる ・冬季は屋内体育施設で屋外スポーツを行うため、体育館の予約ができない、価格が高くなるなどの問題がある	
	扉	・ドアは押戸が望ましい	
	トレーニング室	・マシン同士の間的車いすを置くスペースが必要	
	シャワー室	・米国では、車いすのまま使用できるマシンがある	
シャワー室		・固定式のシャワー、ヘッドの角度や温度調節が難しい	

#### 4) これまでに得られた成果

上記の結果より、障害のある競技者がスポーツ施設を利用する際に、多くの課題が存在することが明らかになった。しかしながら、これはある意味で当然のことであり、本研究で目指すべきは、それらの課題の構造的な整理と、課題に対する具体的な解決策の提案である。

現状では予備的な調査が終了した段階であり、そこまでの作業には残念ながら到底達していないが、それでもいくつかの手がかりとなる切り口が明らかになった。以下、列記して説明する。

##### ・障害種別による「困りごと」の質の違い

視覚障害者においては、すでに既往の研究で明らかかなことではあるが、物理的な問題より情報的な問題が課題となる。ただし、「団体で行動する場合の集合場所」「ビュッフェ形式での食事」などの課題は、パラリンピックで特に問題となる事柄である。

他方で、車いす利用者においては、車いすテニス・ウィルチェアラグビーなど、日常的に使用する車いすに加え競技用の車いすを使用する。この際、この競技用の車いすの移動や保管場所が問題となる。これは、これまで「段差解消」などが中心的であった車いす利用者のアクセシビリティ改善のための方策では、対応できない状況があることを示唆している。

障害者スポーツという、極めて独特な文脈の中では、このように障害種別による「困りごと」の違いが、日常的な場面に比べまったく異なった形で発現することが、これまでの調査で明らかになった。

##### ・地域性に関する課題

北海道における調査では、降雪による駐車場のアクセシビリティの問題が、2名の調査協力者から指摘された。これは、パラリンピック開催時だけでなく、日常的な練習の場面において、冬期の課題を示しているものであるとともに、地域差によってアクセシビリティの問題が異なることが示された。

##### ・「アドホックな」解決の可能性

車いす利用者からは、「2・3名乗りの小型バスでの移動が良い」とのコメントが得られた。このような、即応性のある対応が、アクセシビリティを向上させる可能性がある。

5) 今後の見込み(2年目の実施予定)

今後は、さらにヒアリング調査を実施し、また優れた事例の現地調査を行うことで、「困りごと」の整理・構造化と、その解決の具体的な方策を収集する予定である。

調査開始時には、ヒアリング調査の協力者の確保、また質問事項の作成のため、アンケート調査を予定していた。しかし、文献調査、並びに事前ヒアリング調査を行う中で、研究チーム内にてこのような競技者・競技種目が多様であり、それぞれの直面する環境が独特な状況において、統一的なアンケート調査を行うことは極めて難しいのでは無いか、との認識に至った。また、調査を行う中で、時期的にヒアリング調査が難しいと言う事態が生じた(ブラインドサッカーについては、ヒアリング調査の実施を予定していた期間に大会が開催され、事務局より対応が困難であるとのお知らせがあった)。

2年度は、そのような競技開催時期等にも配慮して、より幅広い範囲において調査を実施する予定である。また、これまで得られた結果をもとにヒアリング項目の精査を行い、より構造化されたヒアリング項目を作成し、調査の精度を高める予定である。